

## 主 題：主イエスの黙示 ②

## 聖書箇所：ヨハネの黙示録 1章5b-6節

どうぞ黙示録1章をお開きください。

## ★ 「神のさばきの日が今にも始まること、それが大変近い」という神のメッセージの信頼性

## A. 神からのメッセージ

神のさばきの日が今にも始まること、そのさばきの日が大変近いという神様からのメッセージをヨハネは記しました。このメッセージは父なる神がキリストに与え、キリストが天使を通してヨハネに与えたものであると最初に記されていました。ヨハネはその後、このメッセージが信頼に値するものだという説明を加えています。なぜこのことばを信じることができるのか、なぜこのことばを信じるべきなのか——。これは父なる神様からのメッセージだからだとヨハネは私たちに教えてくれました。私たちの将来にこれから何が起こるのか、またこの世の終わりについて、知っておられる父なる神がこのメッセージを与えられた以上、これは信頼に値するものだと。私たちが勝手に考え出したものや我々の希望を記したのものでもありません。これはフィクションではないのです。事実をご存じである神様が何が起こるのかを正確に私たちに教えてくださったことが記されている書であるとヨハネは私たちに教えてくれます。

我々がずっと覚え続けなければいけないのは、なぜこの手紙が記されたのかです。当時の教会が大変な問題を抱えていたことを我々は見えて来ました。それはもちろんその時代のことだけではありません。どの時代を通して教会がいつも直面する問題は偽りの教えです。必ずサタンは教会の中に偽りの教えを持ち込んで、人々を混乱させようとします。まさにそれがこの教会の中に起こっていました。一つの罪を許してしまつたら、その罪はあつという間に広がってしまいます。罪が広がれば広がるほど悲しいことに主に対する信仰も信頼も、そして主に対する愛も弱くなって行きます。まさにそういうことがこの教会の中に起こっていたのです。

そこで、まずこのクリスチャンたちが、この教会が、今がどういう時代で、これから何が起こるのかを知ってしっかりと信仰に踏みとどまるように、しっかりとみことばに立ち続けて行くようにと、神の約束から離れてはならないと言うことをもって彼らを励まそうとするわけです。

## B. 神からの祝福 3節

そこでヨハネは神のメッセージを伝えて行くわけです。自分で考え出したことではなくて、彼は、父なる神からのメッセージを人々に伝える証人でした。神様からのすばらしい祝福があるのだと彼はこの書に記しています。どういう人が神様の祝福をいただくのか、このヨハネの黙示録は私たちに非常に大切なことを教えてくれます。しっかりとみことばを聞き、そのみことばを実践することでした。きょう私たちはそういった賛美をしてきました。「げに主はより頼みて従う者を恵みたまわん」と。今我々が賛美したことを神様は教えてくださり、我々信仰者が日々神様の祝福をたくさんいただいているのですが、より私たちの信仰が成長し、私たちがこの世界にあってよりキリストの栄光を現わして行くために、もっと神様に用いていただくために、我々に必要なことは、みことばをただ聞くだけであってはならない、みことばを実践して行きなさいと。そうすればあなたはもっとキリストに似た者に変えられ、信仰において成長し、この世にあってキリストのすばらしさを示して行く存在へと変えられて行く。もう私たちが何度も聞いて来ていることです。皆さんの心の中にもしっかりと刻まれていると思います。神の祝福はみことばを聞き、みことばを実践する人に神が約束してくださっているものです。逆にみことばを聞いている人たちにはその責任があります。感謝なことに聞いたことを実践するための助けをも神様はちゃんと備えてくださっています。神のところに助けを求め続けて行くことです。

## C. 教会への励ましのメッセージ 4-8節

## 1 「七つの教会への祝福」 4、5節

さて、4節から教会への励ましのメッセージが記されていることを見てきました。彼らの上に「恵みと平安」がありますよという七つの教会への祝福のメッセージです。この「恵み」というのは私たちにとって大きな感謝です。私たちがいただいている神様からの祝福、こうしてこの日を迎えている、いのちが与えられていることも神の「恵み」です。そして我々クリスチャンはこのように罪の赦しをいただいて新しく生まれ変わって神の子どもとしてこの日を過ごすことができている、これも神の「恵み」です。神の「恵み」はあなたや私を罪から救ってくださって終わるのではなくて、その後も継続して私たちに与

えられ続け、その「恵み」によって私たちは神が喜ばれる信仰者として生き続けて行くために日々備えられているものです。神様と敵対していた我々罪人が神によって救われて、私たちは神と和解しただけではない。神様ご自身の平安をもって歩み続けることができるそんな存在へと生まれ変わった。ですから、この七つの教会への祝福、「恵みと平安」があるようにと、神様が約束してくださった本当に素晴らしい祝福です。私たちはそれをいただき続けながら、この地上を歩み続けることができる、それゆえにこの教会を励ますわけです。神様からその「恵みと平安」があるようにと。でもそのためには、それぞれひとりひとりがそれを下さる神様をしっかり見上げていることが必要であることは言うまでもありません。

## 2 「三位一体の神からの祝福」 4、5節

そこでヨハネはこの4、5節に、この祝福が神様、しかも三位一体の神からのものだということを教えてくれました。父なる神、「今いまし、昔いまし、後に来られる方」と、時間を超越された永遠の父がこの祝福を与えてくださるのだと。聖霊なる神様がその祝福を下されると。御座の前におられる七つの御霊であると前回見て来たように聖霊なる神の話でした。そして「忠実な証人」であり、「死者の中から最初によみがえられた方」であり、「地上の王たちの支配者であるイエス・キリスト」と記されています。この5節には、父なる神についても聖霊なる神についても詳しい説明がされていません。ところがイエスに関しては非常に詳しい説明がされています。そこにはイエス様の三つの特徴が記されていました。

### ・「忠実な証人」

このお方は常に真実だけを語り続けて来られた。だから私は真理だと言われたのはそのとおりです。主イエス・キリストのうちには偽りがなかった。

### ・「死者の中から最初によみがえられた方」

この方はよみがえった中で最も優れた存在、最も卓越されたお方であると教えていました。詩篇89:27に「わたしもまた、彼をわたしの長子とし、地の王たちのうちの最も高い者としよう。」とあります。今私たちが学んでいるように、彼が最も高い存在であり、よみがえられた者たちの中で至高の存在であるとヨハネの黙示録も教えてくれます。

### ・「地上の王たちの支配者」

そして、イエス・キリストはすべてのものの支配者であると。

この三位一体の神様から「恵みと平安」があるようにというメッセージを受けた七つの教会のクリスチャンたち。彼らがこのメッセージによってどれだけ励まされたかは言うまでもありません。前回私たちが見てきたように、大変な問題を抱えていただけではない、信仰ゆえに大変な迫害を経験していた彼らにあって、神様の素晴らしい祝福というのは彼らの心を間違いなく励ましたはずです。

## 3. 主の祝福の四つのみわざ 5b、6節

そこで、この三つのイエス様の特徴を記した後、クリスチャンに対してなされた主の四つのみわざが記されています。イエス様がどういう方なのかを説明した後、その方が信仰者である、クリスチャンであるあなたのためにどんな働きをしてくださったのかが5節の後半から記されています。このみことばがそれを記しているのは、同じことを繰り返しますけれども、この読者たち——七つの教会のクリスチャンたちがそれによって励まされるためです。どの時代であったとしても、主を見続けることが私たちクリスチャンにとっては非常に大切だということは皆さんもよくご存じだと思います。どんな時でも神様に喜ばれたいと願うならば、私たち信仰者が絶対に忘れてはいけないことは、主から目を背けないことです。例えばもし私たちの目を主以外のもの——我々の周りで起こる、私たちにとってうれしくないこと、非常に辛いこと、悲しいこと、どうしてと思うことに目を向けてしまうならば、私たちは確実に信仰がぐらついて来ます。我々の心の中でなぜという思いが日増しに大きくなって行くならば、私たちは信仰がぐらつき始めます。そうすると、喜びや平安をあっという間に失ってしまいます。

ヘブル書の著者が言ったことを思い出してください。ヘブル12:2「信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。」と、信仰の歩みについて語ったこの著者は、信仰の歩みをしっかりと走り続けて行こうと読者を励まします。そのために私たちはあらゆる罪を自分の生活から除いて行くことだと。彼が言うのはそれだけではなくて、「信仰の創始者であり、完成者であるイエス」様をしっかり見ていなさいと言うのです。どんな時でも主をしっかり見て、主から目を離してはいけないと。そうして信仰者は歩み続けるのだと。私たちの敵であるサタンはあなたの目を主から引き離そうとします。あなたの周りに起こっているいろいろなことに目を向けさせようとうとします。そうすると一瞬のうちに我々は希望を失ってしまう。この黙示録の中で、なぜイエス様の特徴を記した後、クリスチャンのために主がなしてくださった四つの働きを語っているのか——。同じことです。確かに今あなたが直面していることは大変なことかもしれないし、今あなたが置かれているのは大変な境遇かもしれない、あなたは希望を見失いかけているかもしれない。でもしっかりと主を見上げていなさいと。そのために神様からのメッセージを聞かされたヨハネは、主イエス・キリストのなされた素晴らしい祝福のみわざをここに四つ挙げています。一緒に見てみましょう。

5節の後半のところからです。「イエス・キリストは私たちを愛して、その血によって私たちを罪から解放し、6 また、私たちを王国とし、ご自分の父である神のために祭司としてくださった方である。」と。四つのことが記されています。

## 1) 「私たちが愛してくださった」 5b節

一つ目に、主は「私たちが愛して」くださった。この「愛する」ということばは現在形です。継続して主はあなたのことを愛し続けておられる。あなたや私がこうして罪の赦しをいただき、クリスチャンとして生まれ変わったのは、神があなたを愛してくださったから。同じヨハネが Iヨハネ4:10でこう言っています。「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちが愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。」と。好きだとか嫌いだとか、そんな世的な話をしているのではない。あなたを造られ、この世界を治めておられる神様があなたを特別に愛したと。そしてその愛は犠牲の伴ったものであると。あなたの「罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされ」と。信仰者の皆さん、私たちが覚えなければいけないのは、なだめが必要だったということです。

どこかで私たちは神様に愛されて当然だと勘違いしているかもしれない。でも残念ながら、私たちのどこを見ても神様がこの人を愛そうという思いを抱くものは何一つなく、かえってみことばが教えるように、私たちにはなだめが必要だった。つまりあなたや私を見ておられる神は私たちに対して怒りを持っておられるのです。だからなだめられる必要があったということです。私たちはすべての点において神様の怒りに触れているという視点にまず立たなければいけない。神の前に汚れた存在であり、どうしようもない存在であり、永遠の地獄がふさわしい存在だということです。ですからみことばが「義人はいない。ひとりもない。」(ローマ3:10)と言うように、私たちのうちには善が存在していない。全く愛される資格のない、愛される値打ちのない、愛されるところの全くない、こんな私たちが神が一方的に愛してくださった。しかも父なる神ご自身の怒りをなだめるために、しずめるために、子なる神であるイエス様は喜んでご自分のいのちを犠牲にしてくださいと。この愛でもって私たちは愛され続けているのだと。

救いに与ったあなたがその後罪を犯してしまった。それがたびたび続くと、こんな私はもう赦されることがないのだとか、ひょっとしたら私はもう神様に愛されていないのではないかとよく疑ってしまうことがあります。みことばを見ることです。主を見ることです。主はこのような愛でもってあなたを愛し続けてくださっている。もちろんあなたが犯している罪を喜んでおられません。だから悔い改めることを求めておられる。でも主はあなた方を愛し続けてくださっている。

## 2) 「私たちが罪から解き放ってください」 5b節

二つ目は、私たちがその罪から解き放ってくださいと教えています。「その血によって私たちが罪から解き放ち、」とあります。この「解き放ち」という動詞の時制は現在形ではありません。この時制は一度きりのことを表しています。つまり「解き放ち」ということはその罪の縄目から、罪の奴隷からあなたを解放するということです。生まれながらの人間はみんな罪の奴隷です。だから私たちはこの罪に対してどうすることもできない。私たちの努力で罪に打ちかつことはできないのです。私たちの力で私を変えようとしても無理なのです。この罪が私たちを支配していて、どうすることもできない。でも感謝なことに神はそこから私たちを解放してくださいと、私たちはもう罪の奴隷ではなくなったのです。ということは、神の助けによってこれまでどうすることもできなかった罪に我々は勝利できるということでもあります。皆さんも経験されているように、信仰者というのは、日々の生活において罪との闘いがあり、そして罪に対する敗北を繰り返しています。しかし、救われる前と変わった点というのは、この罪をより憎む者に変えられています。罪から離れて行きたいと思っています。そして神様の前に悔い改めるし、また罪に負けないように神に助けを求め続けています。主イエス・キリストは、あなたや私をこの罪から救い出してくださいと。

ヘブル人への手紙を見てください。7:27に「ほかの大祭司たちとは違い、キリストには、まず自分の罪のために、その次に、民の罪のために毎日いけにえをささげる必要はありません。」とあります。イエス様がご自分の罪のためにささげ物をする必要がないのは、イエス様のうちに罪がないからです。しかもイエス様のささげるささげ物は、完全なものであるがゆえに、その当時のいけにえと違って何回も何回もささげられる必要はないのです。27節の後半に「というのは、キリストは自分自身をささげ、ただ一度でこのことを成し遂げられたからです。」とあります。何を「成し遂げられた」というと、罪のためのいけにえ、罪の赦しのことです。当時は動物をささげ続けました。そして罪の赦しを乞うたわけですが、でもそのいけにえが完全でないから毎回同じようにしなければいけなかったわけですが、イエス様は一回で罪を完全に解決されたということがここに記されています。9:26では「もしそうでなかったら、世の初めから幾度も苦難を受けなければならなかったでしょう。しかしキリストは、ただ一度、今の世の終わりに、ご自身をいけにえとして罪を取り除くために、来られたのです。」、今私たちが見た7章の説明をもう少し詳しく記してくれました。罪を取り除くために、あなたの罪を赦すためにイエス様はいけにえとしてこの世に来てくださった。ご自分のいのちを犠牲にすることによってあなたの罪を取り除こう、赦そうとしてくださった。また10:10には「このみこころに従って、イエス・キリストのからだは、ただ一度だけささげられたことにより、私たちは聖なるものとされているのです。」とあります。主がご自分のいのちを「ささげ」たことによって罪から解放され、罪を取り除いていただき、きよい者とされる、救いの話です。

\* しかも、このことを主イエスの血潮(死)によってなしてくださいと！

そしてきょうのテキストを見た時に、この罪の赦しというものをイエス様はご自身の血潮によってなしてくださった。つまり血潮というのは死の話です。ヘブル9:12には「また、やぎと子牛との血によってではなく、ご自分の血によって、ただ一度、まことの聖所にはいり、永遠の贖いを成し遂げられたのです。」とあります。このヘブル書は私たちに何を教えてくれているのか——。主イエス・キリストはただ一回だけ、ご自分のいのちを捨てることによって、血潮によって、この死によって信じるすべての罪人の罪を完全に赦すことができると。あなたをきよめてくださるのだと。ヨハネはここで主イエス・キリストはご自身のいのちによって、「血によって私たちが罪から解放」ってくださったと記しているのです。主イエス・キリストはただ一回のそのみわざによって信じる人を完全に、永遠に救ってくださるのです。I ペテロ1:18-19に、「:18 ご承知のように、あなたがたが先祖から伝わったむなしい生き方から贖い出されたのは、銀や金のような朽ちる物にはならず、:19 傷もなく汚れもない小羊のようなキリストの、尊い血によったのです。」と記されています。あなたが罪から救われたのは、イエス・キリストの身代わりの死によってであるとペテロは教えてくれました。そのことをいま一度ヨハネの黙示録の中で、ヨハネは教えてくれるわけです。ですから救われたあなたの罪は永遠に、完全にもう赦されたのです。このような祝福を私たちはいただいたと。

### 3) 「私たちが王国としてくださった」 6節

三つ目の祝福は、6節に「また、私たちが王国とし、」とあります。私たちが「王国」とされるというのは不思議な話です。黙示録5:10に「私たちの神のために、この人々を王国とし、祭司とされました。彼らは地上を治めるのです。」と書いてあります。つまりこの「王国」とされたということと、地上を治めるということとは非常に深い関連があります。

#### ・「王国」

ここで使われている「王国」とされたということばは名詞で、統治するとか支配するという意味があります。ですからこの人々を「王国」としたということは、キリストのご支配のうちに置いてくださった、救いの話でもあるわけです。救いに与った私たちは主に属する者、主のものであると。ですから、「王国」ということばを見た時に、一つはキリストの支配のうちにあるという意味になります。

#### ・「来るべき千年王国において」: II テモテ2:12; I ペテロ2:9

もう一つ、実はこれが黙示録の中で教えていることです。後に私たちは千年王国というものを経験します。主イエス・キリストがこの地上にお戻りになった後、千年間の王国を築くことが黙示録の中に出てきます。その時に、王としてこの世を支配される主イエスとともにこの地上を治めるのがクリスチャンであるあなただと教えています。この黙示録5:10で、「彼らは地上を治める」のだとあります。王であるイエス様とともに私たちは千年の間、地上を治めるのです。そのような特権に与る者とされたと言うのです。

私たちは将来、空中再臨、空中携拳とも言われていますけれども、地上ではなくて空中でイエス様とお会いする。そしてその7年後——まさにそれがこの黙示録の中に記されていて、我々は繰り返し見て行きますけれども——、イエス様とともに地上に帰って来た時に、我々は千年の王国の中であって、王であるイエス様とともに地上を治める。それがクリスチャンであるあなたに神様から与えられた祝福の一つだと。ですから私たちはそうやって将来を期待しながら待つことができる。そのことを教えている箇所、II テモテ2:11-12には「:11 次のことばは信頼すべきことばです。『もし私たちが、彼とともに死んだのなら、彼とともに生きるようになる。:12 もし耐え忍んでいるなら、彼とともに治めるようになる。』」とあります。私たちに与えられたすばらしい約束です。主イエス・キリストとともに死んだ者たちは主イエス・キリストとともに永遠に生きる者になると。そして私たちは主イエス・キリストとともにこの世を治める者になると。その約束を神様は与えてくださっている。

### 4) 「私たちが神のための祭司としてくださった」 6節

そして四つ目、6節に私たちが神のための祭司としてくださったと記されています。「ご自分の父である神のために祭司としてくださった方である。」と。あなたや私もクリスチャンならば「祭司」だとみことばは教えます。「祭司」とは、聖所に入ることができました。ヘブル10章の中に今話していることがわかりやすく説明されています。ヘブル10:19「こういうわけですから、兄弟たち。私たちは、イエスの血によって、大胆にまことの聖所にはいることができます。」とあります。実は祭司はいけにえの血を持って聖所に入らなければいけなかった。それが条件でした。今私たちは、動物の血を持って神の前に立つのではないのです。主イエス・キリストの血によって、今私たちは神の前に出ることが赦されたのです。旧約聖書の中でなされてきたさまざまな儀式、また神様が命じられたことと、新約聖書で人々がやっていることは全く矛盾するものではないのです。旧約聖書の中で神様が人々に命じたのは、神の前に立つ時にはあなたたちは罪があるから、その罪のためにいけにえを持って、その罪の赦しをもらって私の前に立ちなさいでした。だからあなたがあなたのためにささげたいけにえの血を持って私の前に立ちなさいと。汚れている私たちはきよい神の前に立つことはできない。そのためには罪を洗ってもらう必要があったのです。だからいけにえと言われたのです。神様が私たちに完全ないけにえを送ってくださったことによって、いけにえはもう必要がなくなったのです。その当時の祭司が血を持って神の前に立つように、今私たちは動物の血ではなくて、神が送ってくださった完璧ないけにえであるイエス様の血を持って神の前に立つことができる。そうやって皆さんは立っているのです。イエス・キリストの血潮ゆえに今あなたは神の前に立つことができるのです。当時の祭

司がやったように、今はイエスの血潮によってあなたは神の前に立つことが赦されている。

黙示録20:6に「この第一の復活にあずかる者は幸いな者、聖なる者である。この人々に対しては、第二の死は、なんの力も持っていない。」とあります。「第一の復活にあずかる」人々というのは、救われている人たちの話です。「第二の死は、なんの力も持っていない」、これは永遠の滅びの話です。救われている者たちは永遠の滅びに至らないという話です。その後「彼らは神とキリストとの祭司となり、キリストとともに、千年の間王となる。」と。ですから、祭司という働き人は神の前に立ったのです。神の前に立って、一つは民のためにとりなしをし、民のためにとりなしの祈りをささげた。その務めが今の私たちに与えられているということです。私たちの働きの中の一つは人々のためにとりなしをすることです。そして祭司は人々にかわって神様に話し、また神にかわって人々に語ったのです。彼らは神様からのメッセージを語り、また人々の願いを神の前に持って行った。私たちもとりなしをするだけではない、神様からのメッセージを人々に伝えるという責任もあるのです。そうやってみると、我々信仰者が日ごろやっていることです。人々をとりなししています。クリスチャンのためにとりなし、まだイエス様を知らない人々のためにとりなし、そして私たちは人々のために神様の真理を語り続けている。

オーストラリアのレオン・モリスという神学者は、「信じる者たちは彼らの神によってこの責任ある務めを与えられている。彼らはこの世のために祈り、神がなしてくださったわざをこの世に証言しなければならない。神の名によってこの世に和解のメッセージを語らなければならない」と。今お話ししたとおりでしょう。私たちは愛する兄弟姉妹のために祈り続けて行くのです。まだイエス様を知らない多くの人々のために、愛する者たちのために祈り続けて行くのです。しかし、救いというのは、このみことばを聞くところから始まります。私たちはそのメッセージを語り続けて行こうとします。今あなたはまさに祭司としての務めをされているのです。なぜなら救いというのは、あなたを神の祭司にすることだったのです。神様は私たち信仰者にこういう務めを与えてくださっています。ですからこの黙示録が私たちに教えてくれているようにイエス様があなたにしてくれたことは、あなたを愛し続けてくださり、あなたを罪から完全に解放してくださり、あなたをキリストの支配のもとに置いてくださり、つまり救ってくださり、そして後にあなたはイエス・キリストとともにこの地上を治めるのだと。そしてあなたは祭司なのだ。あなたは神の前に立つことができるのだ。そのようなすばらしい特権を神様があなたに与えてくださったと。

#### ☆「<sup>しょうえい</sup>頌栄」:主への最もふさわしい応答 6b節

このようなすばらしい祝福を語った後で、ではこの祝福をいただいた私たちは神様に対してどのように応答すべきなのか——と。それが6節の終わりに書いてあります。「キリストに栄光と力が、とこしえにあるように。アーメン。」と。イエス様がなしてくださったこのすばらしい祝福を覚えた時に、信仰者ができることは、神様をほめたたえる、まさに頌栄です。神をあがめるのです。この方に祝福があるようにと。

では我々は具体的にどういふ感謝をささげて行くのか——。こんな祝福に与った我々信仰者はどのように神様をあがめて行くのか、幾つかのことを簡単に見て行きます。

#### ・ 賛美をもって:ヘブル13:15

救いに与った私たちが神様をたたえるためにできることの一つは神を賛美することです。ヘブル書の著者は「キリストを通して、賛美のいけにえ、すなわち御名をたたえるくちびるの果実を、神に絶えずささげようでは」ないかと言っています。私たちができることの一つは神様を賛美することです。どんな讃美歌でもいい。賛美をもって神様をほめたたえ続けるのです。

#### ・ 感謝をもって:詩篇116:17

先ほども言ったように感謝もそうです。神様に感謝をささげて行く、これも神様をあがめることになります。「私はあなたに感謝のいけにえをささげ、主の御名を呼び求めます。」と詩篇116:17に出て来ます。「感謝のいけにえをささげ」ていると。ですから、神様をほめたたえることもすばらしいし、神様にありがとうございますと言って神様をたたえ続けること、そのことも神の前にふさわしいことです。そういう信仰者であることを当然神様は望んでおられる。我々の信仰の先輩たちがそのように生きたのです。

#### ・ 礼拝をもって:ヨハネ4:23

三つ目に言えることは礼拝をもってです。私たちは礼拝者として生まれ変わったのです。どんなところにあっても、神をほめたたえ続けるのです。神をたたえ続けるのです。礼拝は日曜の限られた時間だけのことを言っているのではないのです。サマリヤの女との話の中で、場所を考えていた彼女に対して場所ではないと言われた。私たちの毎日の生活、24時間、365日礼拝者として生き続けるのです。神をあがめ続けて行くのです。

#### ・ ささげ物をもって: I 歴代誌16:29;ローマ12:1

四つ目に言えることはささげ物をもってです。神が託してくださっているすべてのもの、私たちのいのちも我々の持ち物もすべて主のために用いて行くことです。そして我々自身もです。神のために何ができるのか——。そのことを考えて私たちはみずからをささげ、すべてのものを主のために用いて行こうとするわけです。「御名の栄光を主にささげよ。ささげ物を携えて、御前に行け。聖なる飾り物を着けて、主にひれ伏せ。」と I 歴代誌16:29に記されています。皆さんもよくご存じのようにローマ12:1には「あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生き

た供え物としてささげなさい。それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です。」と、私たちの持っているすべてのもの、我々自身神へのささげ物です。主よ、どうぞあなたのために使ってくださいと。そうしてこの祝福をいただいた私たちはこの神をほめたたえるのです。

・ **福音の証をもって**

また同時に福音の証をもってです。すばらしい救いのメッセージを人々に伝えることによって主は喜んでくださる。ルカ15:10で「ひとりの罪人が悔い改めるなら、神の御使いたちに喜びがわき起こる」と、神が喜んでくださることを実践し続けることです。あなたがイエス様の話を誰かに伝えることによって神が喜んでくださるのです。そうやって私たちの感謝を表して行く。

・ **従順な歩みをもって**

そして最後に従順な歩みをもってです。私たちが神様のみことばに従うことによって主は喜んでくださる。あのサウロ王様に対して預言者サムエルの言ったことばを思い出してください。「主は主の御声に聞き従うことほどに、全焼のいけにえや、その他のいけにえを喜ばれるだろうか。」、「聞き従うことは、いけにえにまさ」と。(Iサムエル15:22)神が望んでおられることは神様のおことばに従うことです。

こういった生き方が神をあがめる生き方です。こういった生き方を私たちが喜んでなして行こうとするのは、神様の恵みを覚えた人がその神に対してとる感謝の応答です。皆さんはこの主のすばらしい祝福に対して感謝しておられますか？どんなふうにあなたはその感謝を表しておられますか？私たちの先輩たちはこのように生きて彼らの感謝を表しました。私たちもそのように生きることです。神様をほめたたえながら、神様に感謝をささげながら、どんな時でも神を礼拝しながら、すべての物をもって、そしてこのすばらしい主を証しすることによって、そして主が私たちにこのように生きなさいと言う主の命令に喜んで従うことによって、主よ、私はこのようすばらしい祝福を下されたあなたに感謝していますと。そのことを証しする歩みを始めてください。始めておられる方はどうぞそのように生き続けてください。何をもって私たちの感謝を表して行くのか——。そのことにあなたはこたえなければいけない。神様の恵みに本当に感謝しているんだなという行いをもってどうぞ神様をあがめていただきたい、心からそのことを願います。

《考えましょう》

1. 主イエスから私たち信仰者がいただいた4つの祝福を挙げてください。
2. 「私たちが罪から解き放ってくださった」(5b節)の説明をしてください。
3. 「罪から解き放つ」ために、どうして「血」が必要なのかを説明してください。
4. このような祝福を与えてくださった主に対するふさわしいあなたの応答を記してください。